



2024.3.19
第183号

情報化社会と人との調和



域内三支会
会長 秋山 理恵

約半世紀前、「人類の進歩と調和」をテーマに開催された大阪万博にて、「未来の電話」と言われたワイヤレステレフォンに大きな衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。今でこそ珍しくない携帯電話。当時中学生だった私にとっては未知の世界を体感し、とても感動した忘れられない思い出です。

その後、私達の生活は急速に進化し、様々なデバイスを使って日常的にインターネットを利用し、かつて想像もつかなかったことが当たり前にできるようになりました。瞬時に知りたい情報を得ることができ、買い物も現金を持たずともスマートフォンで簡単に電子決済、ネットショッピングやスマホに問いかければ部屋の電気が点灯し、音楽が流れる……挙げればきりが無い程の便利で快適な生活となりました。

多くの大企業では、コロナ対策としてテレワークが推進され、大企業などではリモート授業が取り入れられました。小中学校でも、タブレット端末を使用しての授業で、更に「自ら学ぶ」意識が高まっていくことでしょう。

技術の進歩により、今後益々生活の利便性は向上し、デジタル化、IT化が進み、日常生活も大きく変化していくことと想像します。

世代を問わず今や必要不可欠となっているインターネットですが、その反面、多くの皆さんが感じているように、懸念される問題も多くあると思います。ネット情報は膨大でそれが果たして正しい情報なのかどうかと疑われるような情報も多く、その信憑性を見極めることはとても難しいものです。

また、ネット依存に陥ったり、情報の漏洩やプライバシーが侵害されたりするなど、使用方法を間違えると便利なツールがトラブルの元となります。

将来を担う子どもたちには倫理観をもって、正しい情報を処理するスキルを身に付け、そして人との生身のコミュニケーションも大切にしたいと願っています。

さて、五十年後の未来はどうなっているのか覗いてみたいものです。

発行
福島県市町村教育委員会
津沼支会
麻沼支会

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

令和5年度 各種受賞紹介 (敬称略)

- 文部科学大臣表彰**
 - 令和5年度教育者表彰
会津若松市立城北小学校 校長 鈴木 基之
 - 小学校教育功労者
元会津若松市立小金井小学校長 目黒健一郎
 - 地方教育行政功労者
磐梯町教育委員会 委員 宮森 優治
 - 社会教育功労者表彰
元会津若松市社会教育委員の会議議長 森 武久
 - 優秀教職員
会津若松市立第二中学校 教諭 渡部 裕也
湯川村立勝常小学校 教諭 佐藤 信野
 - 学校保健及び学校安全表彰
喜多方市立塩川小学校 元学校医 武田 祐子
喜多方市立第一小学校 学校医 福田 正弘
 - 優良公民館表彰
会津若松市大戸公民館
 - 優良PTA表彰
喜多方市立堂島小学校父母と教師の会
- 各種功労者知事表彰**
 - 保健衛生
喜多方市立第三中学校 学校歯科医 物江 暁
- 県教育委員会表彰**
 - 地方教育行政功労者
前北塩原村教育委員会 委員 高藤 弘幸
 - 学校教育功労者
会津若松市立城北小学校 校長 鈴木 基之
会津若松市立第一中学校 校長 高橋 伸明
 - へき地教育功績顕著な団体
猪苗代町立吾妻小学校
 - 社会教育功績顕著な団体
喜多方市立松山小学校父母と教師の会
 - 文化財保護功績顕著な団体
米沢千歳クラ保存会(会津美里町)
 - 優秀教職員
会津若松市立蓮教小学校 教諭 芹沢 志保
- 優秀教職員(団体)**
 - 猪苗代町立猪苗代中学校教職員
 - 福島県立会津支援学校教職員
- 児童生徒(団体)**
 - 会津若松市立第一中学校 プラスバンド部
- 福島県教職員研究論文特選**
 - 猪苗代町立猪苗代中学校
入選 福島県立葵高等学校 養護教諭 松本 冨加
奨励賞 昭和村立昭和小学校 教諭 村松 小すえ
教諭 岩谷 友太
- 県学校関係緑化コンクール**
 - 《学校林等活動の部》
 - 知事賞・福島民報社社長賞
会津若松市立川南小学校
 - 教育長賞
会津若松市立湊小学校
 - 《学校環境緑化の部》
 - 知事賞・福島民友新聞社社長賞
会津若松市立川南小学校
 - 教育長賞
会津若松市立大戸小学校
 - 関東森林管理局長賞
会津若松市立湊小学校
 - 福島県森林・林業・緑化協会会長賞
喜多方市立第一小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰**
 - 最優秀賞
喜多方市立第一小学校
 - 優秀賞
磐梯町立磐梯第一小学校
磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立二宮小学校
湯川村立放川小学校
湯川村立勝常小学校
磐梯町立磐梯中学校
- 努力賞**
 - 喜多方市立松山小学校
 - 喜多方市立駒形小学校
 - 北塩原村立裏磐梯小学校
 - 喜多方市立高郷中学校
 - 湯川村立湯川中学校
- 奨励賞**
 - 福島県立会津支援学校竹田校(中学校部)
- 活動奨励賞**
 - 会津若松市立大戸小学校
- 学校保健表彰**
 - 学校保健感謝状
会津美里町立高田中学校・高田中学校
旧(永井野小学校・藤川小学校) (前)学校医 小林 勝博
- 県学校給食優良団体・功績者表彰**
 - 優良団体
会津若松市永和地区学校給食センター
喜多方市立塩川小学校
 - 学校給食功労者
喜多方市立山部小学校 栄養教諭 加藤 真理
- ふくしまっ子ごはんコンテスト**
 - 学校賞
会津若松市立一貫小学校
会津若松市立小金井小学校
磐梯町立磐梯第一小学校
会津若松市立第三中学校
福島県立会津学風中学校
- 食育推進優秀校表彰**
 - 最優秀賞
磐梯町立磐梯第二小学校
 - 優秀賞
磐梯町立磐梯第一小学校
西会津町立西会津中学校

(令和6年3月5日現在)

読解力(リーディングスキル)向上に邁進



西会津町教育委員会教育長
五十嵐 正彦

平成28年度から西会津中学校長として5年、その後、学校教育アドバイザーとして2年、そして、令和5年度に教育長となり、計8年間西会津町の教育に携わってきました。この間、読解力(リーディングスキル)向上の取組は、最も大切にしてきたものであり、先生方の努力で、着実にその成果が上がっていると実感しています。

取り組むきっかけは、「AI vs.教科書が読めない子どもたち」(新井紀子著)を読んだことです。当時の西会津中学校の先生方(私も)で、試しにリーディングスキルテストを受検しました。その直後に先生方から「読解力向上に取り組みましょう」と熱く言われたことは忘れられません。

西会津中学校は、福島県「AI時代を生き抜く読解力向上事業」の初年度から研究協力校となり、その後西会津小学校も協力校に加わり、令和3年度以降は「保小中

を通じた読解力(リーディングスキル)向上プラン」と「リーディングスキルを意識した授業づくりガイド」を作成し、これらをもとに保小中連携で実践研究を続けています。

授業改善を進める上で、基礎的・汎用的読解力を測るリーディングスキルテストは欠くことのできないものです。「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「推論」「イメージ同定」「具体例同定」の各能力のデータを活用し、学習内容の解像度を上げるための手立てを工夫しています。

今年度はさらに、学力向上につながる授業を目指して、予習を前提とした「先行学習」「反転学習」の実践を進めています。加えて、ICTの活用により、個別最適な学び・協働的な学びにもつながっており、より中身の濃い授業になっています。

そして今後は、読解力向上に取り組む市町村教育委員会とのネットワークを確立し、情報交換や合同研修会などを充実させたいと考えています。



我がまちからの情報発信

三島町教育委員会

『年中行事の持続可能な新しいカタチ』

～三島の小・中学生全員が担い手となった“虫送り”～

三島町では、失われつつあった四季折々の行事を守り継ごうという動きが昭和40年代から活発になり、昭和61年には多くの年中行事が「三島町の年中行事」として福島県無形民俗文化財に指定されました。“虫送り”は平成11年に追加指定され、近世の文献にも記された古くからの行事です。当町の虫送りは、各地区で6月のサナブリや7月の土用次郎に田畑の害虫を村の外に追いやってしまうことを願い行われてきました。その担い手は子どもたちで、年長者が親方となって取り仕切ります。

近年は少子化に伴い大人が手伝うようになりましたが、子どもたちが中心となるのは変わらない光景でした。しかし、コロナ禍による自粛の気運と著しい子どもの



小・中学生全員が担い手となった“虫送り”

減少により、ここ数年は中止せざるを得ない状況が続きました。

令和5年春、三島町西方地区では担い手である子どもを集めるために同地区に限らず、町の小・中学生全員に

広く参加を呼びかけ、虫送りを再開したいと考えました。相談を受けた教育委員会は小・中学校と協議し、総合学習で地域の年中行事を調べていた小・中学生が、その一つである虫送りを体験できる貴重な機会ととらえ、協力体制が築かれました。

6月10日、早朝より地区住民の指導のもと中学生が中心となって準備を行い、夕刻には多くの小学生や保護者、そして先生方も集まり、虫送りの行列ができあがりました。「でんばら虫のおいくらよいよい、なに虫もおいくらよいよい、よろずの虫もおいくらよいよい」と、小・中学生が覚えたばかりの唱え言葉を唄い、地区を上手から下手へ練り歩きます。数年ぶりに行われた虫送りの行列を見た住民たちは顔をほころばせていました。

これは、人口減少と少子高齢化が進む中で持続可能な年中行事の新しいカタチとして地域と行政と学校が協働して創り上げることができた例です。なお、地元在住の教員が小学生の参加を促すため、夜に実施していた行事を明るいうちに実施するなど、調整に尽力したことが成功の鍵となりました。

地域家庭教育推進会津ブロック会議

会津域内では、全国的な傾向と同様、不登校になる児童生徒が年々増加しており、その対応が喫緊の課題となっています。そのため、会津教育事務所では「どのように家庭教育の支援ができるか」について協議する場として、「地域家庭教育推進会津ブロック会議」を組織し、令和3年度から3年計画で、PTA代表者や家庭教育に関わる方々を委員とした年2回の協議会や不登校支援に関する研修会等を実施してきました。

3年目となる今年度は、その集大成として家庭教育を支援するため「子どものSOSをより早く気付くために」と題したリーフレットと詳細版（ホームページ掲載）を発行しました。既に御覧いただけましたでしょうか。特

筆すべきは、ホームページに掲載した「相談先・関係機関一覧」や「不登校のお子さんが歩むプロセス」等の資料です。すぐにでも活用できますので、ぜひ御覧ください。

また、令和6年1月19日の第2回会議では、委員の皆さんと共に進めてきたリーフレット内容の啓発活動について状況報告をいただき、次年度以降も取組を継続することとしました。さらに、令和6年度の新たなテーマを「親子のコミュニケーション」とし、前述のリーフレット等も活用しながら、子どもの悩みに寄り添う親子のコミュニケーションの在り方について考えていきます。



家庭教育支援リーフレット



会津教育事務所
ホームページ



「親子のコミュニケーション」について協議する様子

ふくしま学力向上支援事業 ～学力向上支援アドバイザーの活動紹介～

本事業は、今年度からスタートした新しい取組です。県内に10名の学力向上支援アドバイザーを配置し、教員に対する授業参観とそれに対する助言、授業づくりの相談支援、ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査等の分析支援等に取り組んでいます。また、研修会での助言等を通して、本県の課題である算数・数学における教員の授業力の向上を図るとともに、児童生徒の資質・能力の育成を目指しています。

会津教育事務所管内では、学力向上支援アドバイザーの石田秀喜氏が、喜多方市立第二小学校、第三小学校、関柴小学校、塩川小学校の4校を訪問し、授業参観等を通して、教員と共に授業づくりや授業改善に取り組んでいます。

石田アドバイザーの強みは、自身の経験に裏打ちされた熱い指導です。誰にでも分け隔てなく、懇切・丁寧に接する誠実なお人柄も相まって、授業改善の大きな原動力となっています。

「ポイントを押さえて指導ができるようになった。」「児童の実態に合わせて授業が展開できるようになった。」「授業づくりについて気軽に相談できることがうれし



い。」など、若い教員からの支持も多く好評であり、本事業の確かな手ごたえを感じているところです。

学校には様々な業務があり、授業づくりのための話合いの時間を確保することが難しいときもあります。それでも児童生徒の笑顔と算数・数学の授業が分かりやすくなるようアドバイザーは力を尽くしています。当事務所では、今後もアドバイザーを応援するとともに、会津管内の児童生徒の学力向上に努めてまいります。

各学校の特色ある取組紹介

真の小中連携を目指して

若松第五中学校区では、小中英語パートナーシップ事業として、外国語の授業における小中連携の在り方について研究を進めてきました。拠点校である本校は、「英語を学ぶことを心から楽しみ、コミュニケーションを図る姿」、「自分の思いが相手によく伝わるように工夫して表現する姿」を目指し、言語活動やインプット活動の充実を図ったり、ICTを活用したりすることで発信力を高めてきました。そして、中学校区で、小学校3年生から中学校3年生までの7年間の学びを見通したCAN-DOリストを作成し、系統性を踏まえた実践を重ねてきました。

本研究が始まったときに本校の5年生だった児童は、現在中学1年生となり、リスニング力が非常に高いと、中学校の先生方が驚いています。“英語のシャワー”をたくさん浴びてきたことで、確かなコミュニケーション能力の素地が身に付いているのです。

この研究を通して、教師が小・中学校の指導事項の系統性を把握し、児童生徒の学びの連続性を意識した指導をしてきた

会津若松市立城南小学校

ことで、児童生徒の学習内容の理解が深まっただけでなく、他校種の教育に対する理解につながりました。これこそが真の小中連携だと考えます。今後は、本事業で培った小中連携のノウハウを他教科でも生かしていきたいと思います。



小中連携「研究協議会の様子」

「コグトレ」「まなびのあしあと」の活用

本校では、今年度から朝の活動時間に週3回、見る力・聞く力・集中力等の認知機能を高め、学習や生活に対する適応能力を身に付けさせることを目的として、オンラインでのコグトレ（認知トレーニング）タイムを位置付けました。時間になると、子どもたちはタブレット端末でコグトレに取り組みます。トレーニングが終わると、自動で採点され、結果がすぐにフィードバックされるので、子どもたちは主体的に取り組んでいます。子どもたちの変容について先生方に聞いたところ、「集中して話を聞けるようになってきている。」「板書内容を正確に写せるようになってきている。」「記憶力が高まってきている。」というような意見があり、その成果を確認することができました。

朝の会と帰りの会では、タブレット端末を活用し、「まなびのあしあと」というアプリに生活の記録を入力しています。朝の会では、「体調」「気分」「睡眠時間」「メディア時間」「家庭学習時間」「朝ごはんの有無」などの生活に関する情報

会津美里町立高田小学校

について、帰りの会では、「勉強の調子」「友達との関係」「学校は楽しかったか」「学校生活に不安はあるか」「学校で何か心配事があるか」「今日はどんな日だったか」などの一日の振り返りを入力しています。日々の活動の記録を残していくことで、子どもにとって自分自身を知るきっかけになっています。担任は、クラスの子どもたちが入力した情報をもとに、子どもの状態を可視化し、子どもの実態の見取りによるサポートに役立っています。



「まなびのあしあと」への入力

生き抜く力を育む「食」「地域の支え」「役立つ喜び」

喜多方市立会北中学校

本校には誇れる給食があります。これは約30年前、「子どもたちには安全でおいしい熱塩加納産のさゆり米や野菜を食べてもらい、健全な心と体を育んでほしい。」という地域の方々の熱い思いが形となった給食です。無・低農薬、有機栽培等で作られ、朝採りして朝一番に届けられる新鮮で愛情たっぷりの野菜は「まごころ野菜」と呼ばれます。調理場で素材のおいしさが更に引き出された給食は、まさに「日本一おいしい給食」です。

学校田学習は、季節の移り変わりとともに様々な表情を見せる田んぼ、そこに住む多様な生物など、大自然を体いっばいに感じられる学習です。お米は有機無農薬栽培のため大変な作業が数多くあり、地域の方々の協力は欠かせません。特に、今年度は酷暑の中で汗だくになりながら除草していただいております。もはや教師のように生徒とともに「伴走」する地域の方々の姿があります。

生徒は、そうした地域の方々の熱い思いや心強い支えを感

じながら、多くのボランティア活動に参加しています。休日開催の地区の夏祭りや防災運動会の運営協力、三ノ倉ひまわりフェスタや秋祭りでの合唱披露、除雪作業などです。

地域の方々の愛情、豊かな自然、人のために役立つ喜びを数多く実感し成長している生徒たちは、これからの予測困難な社会を生き抜くための力を着々と蓄積しています。



三ノ倉ひまわりフェスタでの合唱披露